

合宿記—1 日目午前から—

法学部 3 回生 井関竜也

・ 藤子・F・不二雄ミュージアムと藤子F先生のお墓参り

・ 合宿、はじまる。

合宿初日、朝。

乗り心地のよろしくない夜行バスにゆられた末に渋滞により終点には大幅延着することを告げられたF同メンバーたちは、予定外の横浜駅へと降り立った。

こうして、若干前途多難気味に、結果的には充実した今年の京大F同合宿ははじまった。

初日、我々にとって最大の目的地は藤子・F・不二雄ミュージアムであった。が、その前に一箇所、行くべき場所があった。

・ 藤子・F・不二雄先生の霊前に参る

横浜駅から列車を乗り継ぐこと十数分。現地集合メンバーと合流しつつ、閑静な住宅街の中の小さな駅で下車した。

藤子・F・不二雄こと藤本弘先生のお墓参りをするためである。

藤子先生のお墓のある霊園は駅から十分ほど。小高い丘のうえの広い霊園にある。先生のお墓は、ほどなくして見つかった。石造りのドラえもんが微笑む墓前には、関係者の方やファンが持ってきたのであろう、大量のお花が備えられていた。

この先生がいなければ、自分たちが愛してやまない作品もなく、こうして自分たちが集まることもなかった。そのことを嘔み締めながら、おのおの思いを巡らせつつ手を合わせ、霊前を後にした。

・ “Fミュ”到着

早朝のお墓参りの後、宿河原町駅で駅の随所に設置された藤子キャラの石像にテンションをあげていたF同メンバーは、パーマンペイントの施されたバスに乗りFミュに到着。

快感時刻少し前の到着であったが、既に来場者が列を作っていた。しかしミュージアムは外にもアンキパンを再現したレプリカや藤子キャラのフィギュアが飾られていてあきさせない。

入場後は、まず少し早めの昼食をとることに。最上階のカフェで藤子キャラをあし

らったメニューを頼み、会員でシェアすることに。ちなみに、筆者は個人的に丸底フラスコに入って出てくるハーブティー「USO800」を注文。

カフェの外は、屋上庭園になっており、実物大の土管やどこでもドアをくぐることができる。当日は小雨がぱらついていましたが、USO800を飲んで「激しい雨が降ってきた」と叫んだことで天気も持ち直し、土管の前で記念撮影。

(この時の様子は、藤子・F・不二雄ミュージアムの公式ブログに掲載していただきました)

・ 圧巻の原画展

空中庭園でひとしきり楽しんだ後は、1階に戻り、展示を回った。今回メンバーが見た展示の中で、最も印象的だったのは、やはり原画展だろう。

後半の広い展示室に、有名な作品の原画(またはそのレプリカ)が展示されていた。そのとなりでは、アニメ化された各ストーリーの動画が流されていた。

「おぼあちゃんの思い出」「結婚前夜」「帰ってきたドラえもん」などなど、もう台詞も覚えてしまったような有名な作品の著名なシーンの原画が飾られている。しかし原画で見る1ページには、何度も修正されたであろうペンの跡、描き直した絵が貼られた凹凸など、単行本を通しては味わうことのできない、そのワンシーンが誕生するまでの息遣いが込められていた。

その、誕生の痕跡にふれた後に改めて見る、慣れ親しんだ多くの名シーンは、今までもまして感動的だった。たとえば「帰ってきたドラえもん」の、笑みを浮かべて部屋に座るドラえもんへのび太がかける「ぼく、うれしくない」の一言、漫画で、あるいは中編映画で何度も読み・聴いたその一言が、改めて真に迫ってくるのを感じた。

後日、関係者の方に聞いた話では、やはり原画展開催中、世代を問わず、多くの来場者が、最も印象に残った展示に、この原画展を挙げていたらしい。

こうして興奮と感動につつまれ、藤子ロードで多くの藤子キャラたちに見送られ、F同初日のメインイベントが終了した。